

COP10 先住民族ニュース No.7

発行日 2010年10月27日

発行 COP10先住民族ニュース取材班

10月26日

9:00 から 朝の IIFB 全体会合 (IIFB: 生物多様性に関する先住民族国際フォーラム) : ABS の進捗報告
13:00 から CBD8(j) に関するコンタクト・グループ
18:15 から ロシアの先住民族によるサイド・イベント : 先住民族による保護区への取り組みなど

カナダ政府記者会見 10月26日 15:00

カナダ政府の誤った情報と背信行為が、生物多様性に関する交渉の障害となっている。

26日午後3時から開催された記者会見におけるメディア・アドバイザリーの翻訳
先週、カナダ政府は ABS 議定書草稿の前文から「先住民族の権利に関する国連宣言」への言及を削除するように執拗に要求し続け、先住民族組織から強く批判された。

この件に関して、先住民族担当大臣であるジョン・ダンカンが10月23日カナダの APTN 社のインタビューに対して「日本で討議されていることは知的所有権に関する問題であり、『先住民族の権利に関する国連宣言』と関連する話ではない」と話している。

このコメントに対し、イヌー民族のアーモンド・マッケンジー氏は「このことは地球上の先住民族にとって重要な問題であり、このような形で先住民族担当大臣が、世界の人々に対して誤った情報を流していることにショックを受けている」と述べるとともに、「議定書は遺伝資源及び関連する伝統的知識に焦点を当てたものであり、知的所有権は中心的な課題ではない」と反論。

「私たち先住民族の文化的多様性は、生物多様性と不可分に結びついており、カナダ政府の対応は、先住民族を周縁化し、議定書草稿における私たちの人権を踏みしめるものであり、理解しがたい」とケベック・ネイティブ・ウーマンの代表であるエレン・ガブリエル氏は語っている。

またクリー大評議会を代表してポール・ジョフ氏は、「カナダ政府が合意プロセスを利用して、世界の先住民族の権利に関する基準を、明らかに引き下げようとしていることは恥ずべきことである」と述べている。

合意プロセスが拒否権として利用されていることから、先住民族には二つの危機が迫っている。締約国が議定書前文への「宣言」を取り込むことへの支援をあきらめるかも知れず、また遺伝資源に対する先住民族の固有の権利も、それぞれの国の国内法次第とされてしまいそうである。

(記者会見配布資料より一部翻訳)

ロシアにおける先住民族の取り組み

10月26日 18:15

ロシアの先住民族によるプレゼンテーションが名古屋学院大学で行われました。ロシアの先住民族について分析する際に注意しなければならないのは(ロシアに限ったことではないが)、ロシアは非常に広大な土地をもつために、一口に先住民族と言ってもその内実は多様であるということです。これはイベント中さまざまな箇所で言及されました。

アムール川周辺に居住する先住民族は、汚染物質によってアムール川が汚染され、その負の影響を受けていることを指摘しました。負の影響とは、癌の発生率を高めるといった直接的に人体に害を及ぼすことだけでなく、周辺の生態系が破壊されることによって先住民族の生活に変化をきたす間接的なものも含まれます。

アイヌ民族もそうですが、川は先住民族にとって最も重要な資源の一つです。そして人間を含め、生態系にとって大きな役割を果たしている川は、いったん汚染されるとなかなか元に戻りません。

他方で、Tomsk oblast の保護区では、先住民族による森や湿地(川・沼)の管理・保護が行なわれているようです。自然と共生してきた彼らの知恵は、生物多様性の構成要素の持続可能な利用という CBD の目的に大きな示唆を与えてくれるでしょう。(YN)

告知：グローバル・対話フォーラム

2050年のための戦略・先住民の知恵に学ぶ。

日時：28日(木) 10:00~12:00

会場：名古屋学院大学体育館2階 大会議場

担当作業部会：生物多様性と開発～貧困・人権・地域づくり～作業部会

上村英明・武者小路公秀・駒宮博男・大沼淳一 他

COP10先住民族ニュース取材班

COP10開催期間中の連絡先：

より詳細な記事は先住民族の権利ネットワークのブログをご覧ください。 <http://indigenousnet.blog75.fc2.com/>